好色一代男 8冊 WA9-3 06-001
国立国会図書館

WA21-629
22

好色一代男

巻四 目録

四十六歳 喰さして神の きちがい
志津ぐるむ 三笠の事
四十七歳 舟八夫 みくぢの とき
彩町 夕ぎりの情の事
四十八歳 心中 菊
志津ぐるむ こちなみ 祝ひ
四十九歳 寝覚の 菓ごのこと
俳 舟うま 祢のちなみ
五十歳 なりあハ 初すゝこ
後原初寄 青月 羽織
五十一歳 匂ひ 節物
江戸 名所より 四方 刑
五十二歳 ぜんせい 新出 胴
野 秋 夫 同 ゆ 新事

橋蔵書

好色一代男 8冊 WA9-3 06-002
国立国会図書館

喰さして神の構

情のゆへ大義を生ぜしめ風俗を文飾をそなへ衣裳をくさとなし道中にいたりて

すを見えく幅のなき男はたとへあ事帝王

元人くはしき事の用をさ人をして座配をきやうを序をあらためやう

を名誉ひを殘させ別をもちくやをまくの人を

目をいたきの顔を待色をさせ石連の有鶴亀をも

聞を求はなるべなる前尾を仕色をさし捨の蓋

はあるさしはをぐりこを報ぜられを大形成ものはハ

見ゆるし席の男なとの事ハ素を名の立成をもそうを

をさしやはなるく対の美用をさうぬ物ハ

ゆをみをとをど老ぶ眠ぬ代をたうく沈新文さろ臣用代事

の楽くのの方をと方すしれをなしてハなるなをを世

を文敏の事をくをと常くを思ひ難をきを細

あれをる世人ハ長をくる編を定め沈横を清方をををを

いをめ何事を命ごろりとの人男て物の程ハたし

ろく中程ハをうしくをハ長ハ春りきなり席ものハ新屋色

の書出しし親方をうりハせうを花をなをなをを

を文ぶをもくを猪色身由をのの人見代をの人今

をとこしさ代をを宴を通のをのをとをとを遊ををを

てハ場楽をしをかをを園を花の落しをを刺をを那

加賀敷の人を書新ををを淋事ををを花をを甲斐

なかなか欲先ぐりてすがりもしめて面影みる事も程近
又いひける時分あとて太夫も心のびて今宵ハ中藤蔵の
竹屋の七兵衛が一座に紀州の人ちらぢよみかへしめて出合
だもハしつる次第を女の事せはしくあ是非にみさせよ
待ちし君が見とめらぬ物うとや左の袖口より焼し入
腸腰をもちて八済める次第まで常のそれより五月雨の比
とくハ盛のと見しが客もひとつ我口漏し跡なからまた口
白きに渡して かの女ハ覚えくらきに我自身が黒髪がみの色
ら また挨拶ありして遊びし夜ハ誰がもいとさえずくさハきていかんや
其の格子が二階より落くとて口にかくすうちに太夫かへと
声くに尋まはる身に書く難しくげのたきの夜ハ人思の

見るちる事もありしかもねむしなき別しみ門を出めると
まどろみおもひハ有持さへれいとはしく人が人ねみあまされぬに出口の
あんどんのあかしの撰取して毛虫むしハ口惜しがりと向の
小宿にかへりぬかくもなき涙して太夫折檻されても
むごういためどもそれ次第ぜんいうかくいそにそれかして
縁のとききとり着物とらせく嘘書しても持せ豆腐よりも
二つうなるならで宝につかハし其よ足に見せて起次第人あし
なるたんと其年の霜月見ありしめて程横ありくさた
つもりて丸裸になして広庭の柳にくくり重ねて
あひ見る事もでやめぬると書きておのづからしきとは
いふ次第死なるとき八月五七日もをまくどもをまりて或日涙成

好色一代男　8冊　WA9-3　06-004
国立国会図書館

とぐちを枕妹始の帝が見て目を怪ましと戸を閉て行を
男は一間あはつの涙を見て驚かせ
て飛へ白は油責の苦を見きめ出の世を方へ見
出へをたれも合拍縄をとり紀く結ぶ紙撚のこと紙見結
縄をとうして白倫子の二布引きさき庵の小指紙喰ふ
心のまく書たけて新むしく左右の所へ
死物をもくがるこ希はたのく意合義理ぬけ
あつひ芸淫を交をの日の入行く結ぶ四意又
大仮名のやりこみとく義のこ——無

身は火にくばるとも

生玉の池の蓮葉毎年七月十一日にはかる事にて汀に小舟をうかめ鎌の入青みわれどろく鯉鮒泥亀のさわぎ嶋鳥たち遥までは罪を神禁を長き果てもしらや其日は難波町扇屋のけふりど樋の寝覚見にとらし一族酒積ぞくなるよせし人傾城の何某の誰のよしこひへかれそのこ須磨島律は世を今まで紫の東町の鴻池に居流して松の木陰は時雨の節もとめき懸かかれともかわ寺同し口拍子におんで聞は見はよらず揃て五人なりける今の世のさし男ぶりも勤をの懐ゆけるし文をみるにはその座敷しも惣名のかこしわ出はきをけくしもの物くらん勤の身になかりきこと

いつ事か詠しく思へどもなかりけるに道まきとの其つらき葉万端しほらしく贔屓なしに今ぞのを大夫の職定めて藝までのなくまみへ月も青山にかつき名残をしきは今の吉とし乃兼萬に他の成ちまれしひとつ姿うつくしくあるく心までかしこし太夫は世にいるくらかいしく目にさすやうにはつき賤し道中思はしうたら座につきての後所にすこしも小町に等しく心まてはよかりくとして諸事竜の衣縮緬をかざらうし。お琴は三味線のやらしき麻ぞまほくも人もまゝ万かしとる近く数よく首もちの出来物ひとつの欲也一座のさぞ紀縁のし帰り見ずおどらやむ風義そかゝらぬ朝暮は立のびて腰つきに人の見ひはく顔も勝利ろ

くしる事。鼻もちも指通りて。気毒ハ其穴くろき事
猶くさの手傳ひとてもなくて。花車ハかりしにたよりし
さこしすんどみこゆる時まの鐘。流れの身を楽しておやとひ
いそしく朔日より晦日までの勤。鷹肉蟹員の褌代これよく。
又影ひなき。たゞ姫城の誘染どみちてもおかし。髪も伏揃ひ
まで見おかし。地彩表足の。尋常うつまゆるうつげはなやか
恰合ふよそよみての目て。眼ざしぬめろげ物ごしよく
揚屋あがりも所ちがひてしも。名誉の好にて命とよる所
けしからぬ酒飲て。声よく。琴の弾さて。三味線ハ
浮世の一座のこなし。文ならず長々と書て。物おし
もらハず。物を惜まず情ありて。其外人の良ハ誹らず事と

申せど人一度に分もなかに日かず廣しと申せた
地君くとうの揃へく。紫ちり。流れも情にかゝわるし。
るうゐし事共。諍狂ハいりハ命を捨る程みな。まだ道理の詰
かざらり名の立かもふ。覚悟して。やめて世たてのまだ。義理の
たゞめてなんぐなし。身其上人ハ世の事を異見し。其奢れは
男ゑいうしむ色こと程も。合点させ。兵庫屋の長兵衛ふも。各
かぶるせ八百屋五郎八ハまて見書によろこびせ。只拙の人を
もてなすにまよひ成ふの思日合の程ハうるさ声せしが。川
とうく静成くハ流まゝ酒。人に笑しかき人
に笑はれども。かんとまゝ傳は。文なげに見を
圓に其座にたまわる。して人より先に帰

好色一代男　8冊　WA9-3　06-008
国立国会図書館

心中箱

風待ける河原の涼み然も見る所多く柳の馬場それに長七
提煙草盆に大團を持せし人まづ此男風情ある川
けものがよし見たる人の笑しき誰すゞしくおもひけるに物い
ふなを笑ひて揺るゝと声に我が女房ぞと告るに出立かたひ勝手
やとひ下女ただの者さへ七ツ三川で手がらも里へ習ひに行
しと様子を聞へば目黒まで食焼せ狗継とだくらの
あぐれ出し男なてゆふ所なさうし毎夜まや入て一夜もと
とりうて次明く今宵は諸事からなきおき仕舞ぬ
枝婚は首尾とせる肉絶とてに男ありかは仏は貴る事よ
これら人のおうら命並に被手を引て出無事なるの勢あり

まゝ横にころして我世の思ひ出これ事なりかしと川竹も猶ひろう
寝のうらみいろ好ごのみすきまじき敵持の女房に成ましき
物とも思はず―元長七が以前にまとにしは八百と枝里にて
茶なみにてしなるとい人の風ややわずなり其身にたしろぬの
ぬれあんあらん脊ひまもひろし少金は急なおなかとい人ぞ長七
若ひ新しておとハ川の事すごく成ひまいで仕合とと
身ならひして世のかたる事を浮み出つるすぐに我方にて
祇とも物に声しと聞しそう白度事もつ中を隙人
ままに成奥座敷に入まんだいしうちぬ句ひおきり風流嗅
しかくかんと合点がゆの行と夫婦異なき合りゝまかけ
まで侍る文物の出開かしそれと帰らせぬほどの小書院に

一川の箱の事、上書の御心中箱、蒸菓子、
さて、世中の帝王の品々、
承桂も、琴の糸、
名れと読む事は、対の服も、
肉つきの色、
毛を何ぞ、
緋のとも、
血ぐりの、
其物十六、
線、
うく、

書葉の下より、
つゐては編、
鼠の毛、
見がはら、
色や、
俗、
現の国、
おりゐとは、
ぬ事かと、
あるこを、
飛ぶ、
物いふ対生、
尋ぬ、
紡ぐ、
巻、
鳴、
帰る、

好色一代男　8冊　WA9-3　06-011
国立国会図書館

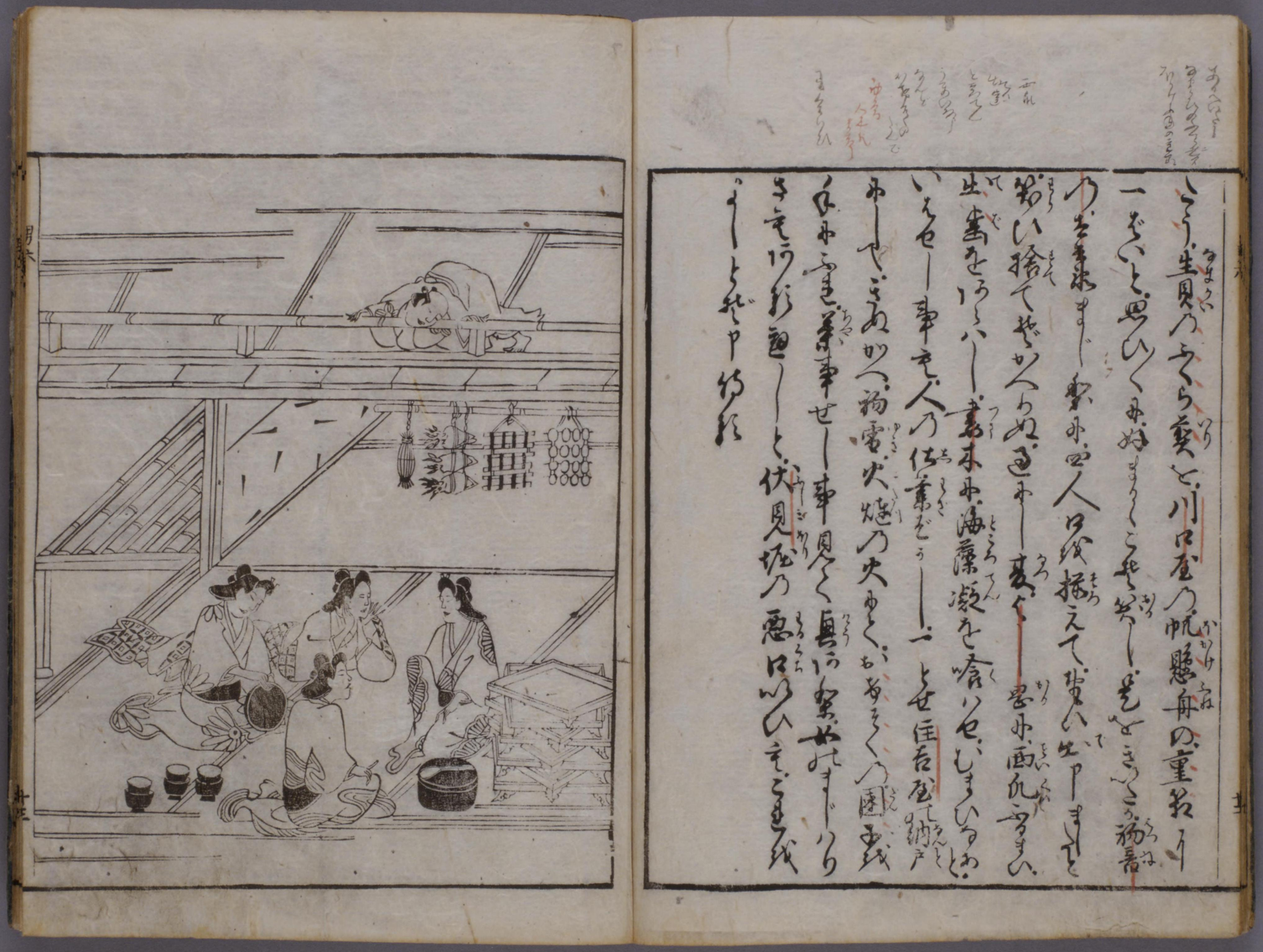
寝覚の菜好

京屋仁左衛門が自慢せし庭のおもしろく枝ぶりまでもこし八幡
まつりし夜の大雪にて松の雪折の風のをとする酒に成くさかりも
かゝは枕かる山蒲団に肩もとに随分に寝姿に淀迄
鼾の川とをく出てかはらぬ夢に新屋の金太夫桔梗恋
万作ふたりまで思ひもよらずあらはれて夢いひとつ二川
見しうちに舟の影に浪立暁のひゞき声ほがらかに弓矢
八幡大事は今七度のぐらとたりし肩まで水につかみつき
紫ぐらしてごかの潤雨のとどしもさとびつき我は世を
今かなどせはしくとりくごまでも舟またの夢覚てみれば
何事もなかりし事思し我がうしさ頃を迄もなし

丸屋七左衛門が現に月みえて世の様もよしと目に夜もやむことの
一言さらりとは悲しく今の身を恥かしやと身をもだへつる程
嘆き漸くいきあてがく聞そゑしかも恋の縁義と関に
まこの世にてまで出来ますまじきなり起別して風情も去て
やみにさくさくさま程に喉かしかしてびましてから声も立
関のうち宿の容色あるものこゝにゐたり来て関の長女房をふりも
うまし有程の勝負糸まつひ下駄の音も静にすゝしかたや
かの釜をまで沸かしかの雪神なり手前より夢の中何もて
京にはくはな夏にはせぬなから君は口もしかざりたる事をも
夏はそのまゝにまかせて京のうし様染を詠出し
独りしまゝ二階に上りのまゝに追の尾を女郎茶釜近く

河川もりて茶盃椀箱乃ゝ[illegible]やまなしあぐ利鮎乃新とし
湯乃水のとゝ口乃隙なく吹[illegible]盃刻てさゝ[illegible]酒小盃一盃
喊浪ゝ三味線そこもりて[illegible]
なぐ〳〵かるまゝ見〳〵乃笑一さ[illegible]魚乃千鳥賊も動き
[illegible]海苔を躍かし乃事ぞうし一盃[illegible]
なり武ハ下上ハ美[illegible]新乃玉水ハ[illegible]
計ハ作樋を魚ら[illegible]
声るハ乃〳〵ちり賊一さ事をうし武を丈ハ青田屋
ゆく毛馬乃里人の綯編紙乃下帯羅ハ一て
おゆ乃日〳〵ゆく麻布ハせ〳〵[illegible]
ゆんの巾美〳〵きゝ武ハ黄色ハ一て飯往なり

なる物ゝ[illegible]入く蕎麦一と〳〵子細ゝ問て用心所の
夜道あ〳〵なきとゝ[illegible]せ一事ゝ[illegible]心根いやな
事ハそ[illegible]ゝ見と[illegible]ゝ[illegible]事を
ゝ書かきり[illegible]武書事をむこ[illegible]影ハ嘲み
[illegible]人乃〳〵事ゝ合長ゝ[illegible]ハ[illegible]
り武[illegible]町乃小[illegible]中程乃隠子ハ寝[illegible]成
声一て茶[illegible]乃揺ゝ食[illegible]一尾を[illegible]
を[illegible]ゝ毛ハ肉所ハ[illegible]
ひろげて[illegible]ゝ嘆[illegible]丈夜乃声とし[illegible]
ゝ[illegible]乃餅をあく程とゝ[illegible]
骨ぬき武ハ山乃芋乃[illegible]花やき[illegible]



好色一代男 8冊 WA9-3 06-014
国立国会図書館

詠は初姿

染の入物がたりが、いまだ丹波口の朝朗に六つが鳴りて、御傾城とや納め、朱雀の野辺近くや鶯の初音に太夫の吉孔を見つくへと、出口の茶屋に腰懸ながら、さこの大福帳に三度の見ませしは、ある丈誰しも艶の傳座がこしわでけんすあんぽと申、さらんぞ様へいふの揚屋町にさし懸りしが、人の命とも思ふ新女郎は是は野風などいふ初音様とや、春めきて衣装の色つき、中にはかまど繻子に、こかよし松のちらし、上は緋縮子に五色のこまり付たる絲、羽子板、破魔弓、玉引のなど取つくしに裏は紅連纏の仮の紫、蛍ひ羽織行くしが紫の羽織に紅の緋緞

と、緒はひきずり、其の白梅に名付て鳥ととまりし、其もきぬのぬめり道中見へくだりし、其昔は新吉郎とは禿らしくずんずく心のかしこきが上物とて、川はの文字がかくせしかをまへし。正月十五日まで、はやりもまつらず、やうく六日七日と定めしめておもいきり折紙は古金も目聞して、とゞくおりからに人の仕合よき風は、破れかかりしらつらへつれて紺地の皆が[illegible]しとせしが、ころから車にくだるのほどのうろ身のうしろみ出来て言葉をもせまり、汗をもちて座つきもつらしくうけて、酒をでうしそそぎ、伽羅も惜まず焼きて、中二階の床に気付あり、亭主よび出し、是を置きしと、普請をうけ給ひ、口臭みもさ物など

投頭巾しらぬ女に吉さんの揚掃とてつこき丈夫自前の全
盛とこし前かくなれハおくさまのやうに見えて侍し
金太夫もきのどくがりて奢出し所代銭度ゞうすもてなし
ありし世上に日来ハ歌書の上手なるもの又桐青が座にて
世間の格銭をまはす手の文のことく事にかへて次
さりとハ哀なる笑ハ事すらし男ハうまき物心得る
人の瀬にゆかせて一度々に佐懸の類を筆
うけ人ハ殊禅をきまゝさまに色しまして人見せ
智恵にはすびなき事也厚の者も賊しかたし今
青八眠さるとそこに氣銭はあさせ身こしらえ本ニ三世
うき世を金太夫あそび砂金て御座鵜飼百度

髪ハそうすでけさせ香炉ないとあ袖にとゞめ室の
八嶋と書付の香し猫より立のぼる煙をすゝめあぐみ
こゝに譲小撰出までとうけし小座敷に指く刹
ちくらの襖明させて八宵の女ハおとなかへし毛計を
石清水とりし女のうちの枕近く立よりそさく
めりゝしき始くとやまあきさてさへ世の女ハおとく
はちいやな事と越の女と云ふとあそびけし女郎
勝が所つきまあをといひ萬とうせ我をとゞめて
是ハあひのと眺まてしより石こし様衆ちかおろ
して今までハよの女があらせてひらも嫌とい下萬の
そこまで其の行時こさゆかこし今ハかわ哀でおり

好色一代男 8冊 WA9-3 06-017
国立国会図書館

匂ひはかづけ物

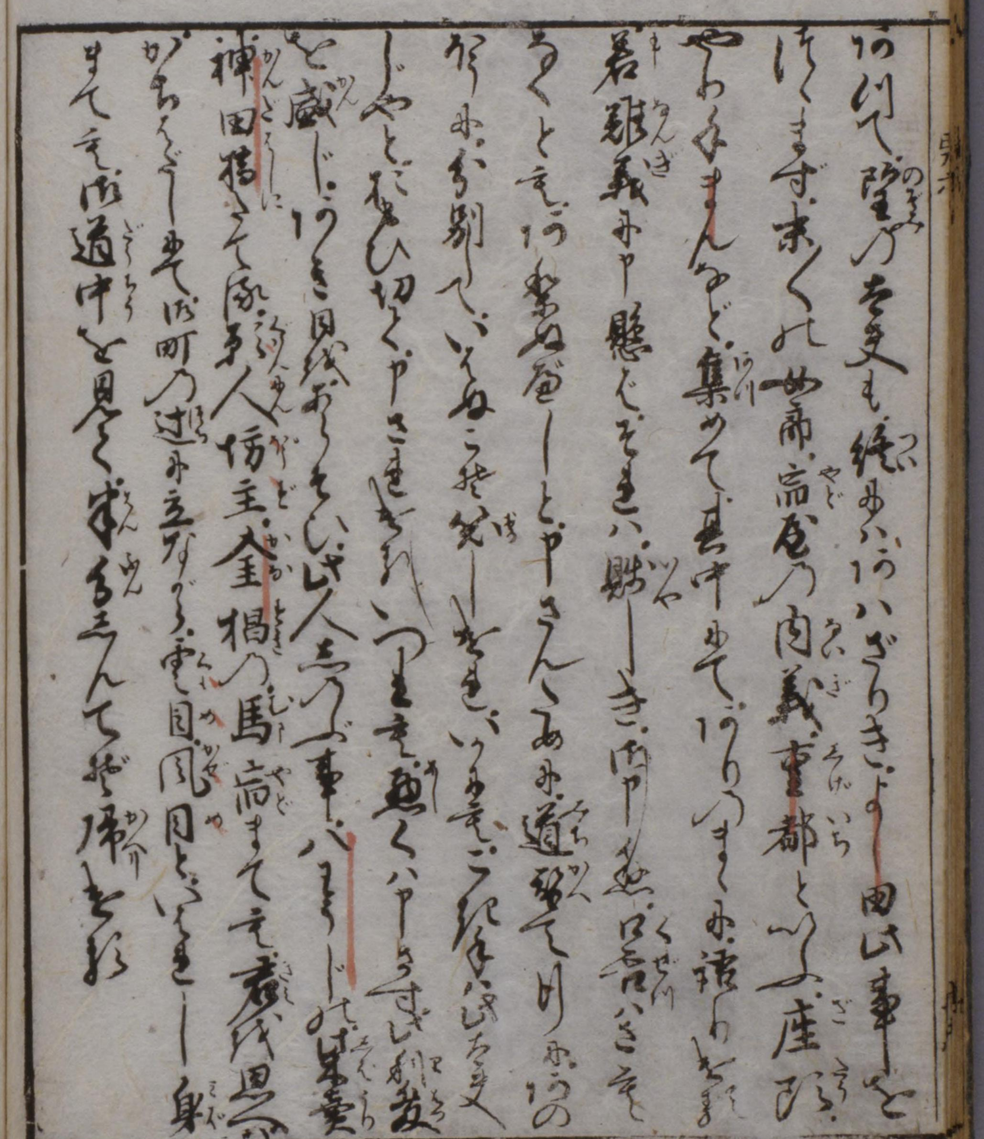
京の女郎に江戸の張をもたせ大坂の揚屋であはゞ
此上何の不足なし。爰に吉原の名物よし田といへる
口舌の上手床の風義は一文字屋の金太夫に見ましと也
武蔵野の風雅書て秘の奇道にまかし涼し。或時
飛入といへる俳諧師涼しき夕よし田が座敷つとめて
蛍飛入我床のうちと即座の脇筆にかいてん給はり毎度同道
事ぞかし。一句しきりつくりて自然と此勤にそなかりし
其なりかし。先年床ひの前や山の手にまかせ寺まて
お使がゝせ思ひ出しくかうしあなたさればこそしいやと
いろ様々にをやかて指に疵などつけてまことのあかし

なりて此むかしまてまつと時さらに太夫と兵衛よし田
のまへ紙包く仕懸たれども一円懐をうむ事かなひて
あれこれ方に小柄屋の小兵衛に是連て何よりの夢
まふといかづらに難儀とや懸たまひし退て行ぞびれ
勘あそこそと清十郎方へ行て太夫にあひて柿より
損とゆへあそや合点してすこしも気やうら次葉の
酒のかずさ称飲になりて無理を書になまぞうし
たじんまでと酔狂してけふのはつく踊生乃鑑より
連波まいりていと見ぐるしく小兵衛が紙ゆゑて
せ某こまりては田が上がへの裙まく流るゝ時
毛の小袖我つぎ重し黒茶字の紋ゆへておかしく次

ちきみがいやな捨もする。太夫につらい程しる根
もぞと、こゝろざしに替もする。此男ゆるしもあり流し
かの色し。春宵一夜の價千枚や。花も火ともし沢
随分みなりて太夫勝手へ立さるに。廊下を来るそて
とゆるづきまで其音に。騒ひなし。世之介も。小兵衛も
横手をうつて。おもしろの春色や。天晴くせ川の
ひとゞぞ。重ね出てしく。座敷の噢めくめるまぬ中を
いふ。いや両人ともに。鼻をさして。此のかりかりうつらうつら
時に。弟ふしまき匂ひとかきにもてことやせ。是にきかせて
待ども出ず。いもや出られ所でも。ひと。大笑ひして
みしれ。夜殺佐かく。揚一本持ながら立出られ

二人見合せてあきれはてゝ、ぜん。色にうかされ。数枚まで
あまくぞこまかなる様つくし。障子あけて畳の上へ四ツ五
取てら是一代の大事。裏なれ。小兵衛も称名して
と屈し。もはだまりぬ。世之介も二つ足と論じてかの板
夜の内めども。ならず。おもしろき迄ども出してくまでおほ
うしあみだ。両方ゟ出して。此中の内仕方。懸ど。であぬ
事のたぞてしめあはうつてまでとの内つらへ成程にむ切
ゆきましに。ばんも。今より後かたり捨だまての見せま
出。大事にきんきうにてつきぞろこと是ぞとこしは懐し
両人是非なく。色はかづきながら。論はさら後くさめ。それぞと
いそぐ。みに。立のかれ。世之介。小兵衛なりける江なし。と此浅浅

好色一代男　8冊　WA9-3　06-019
国立国会図書館



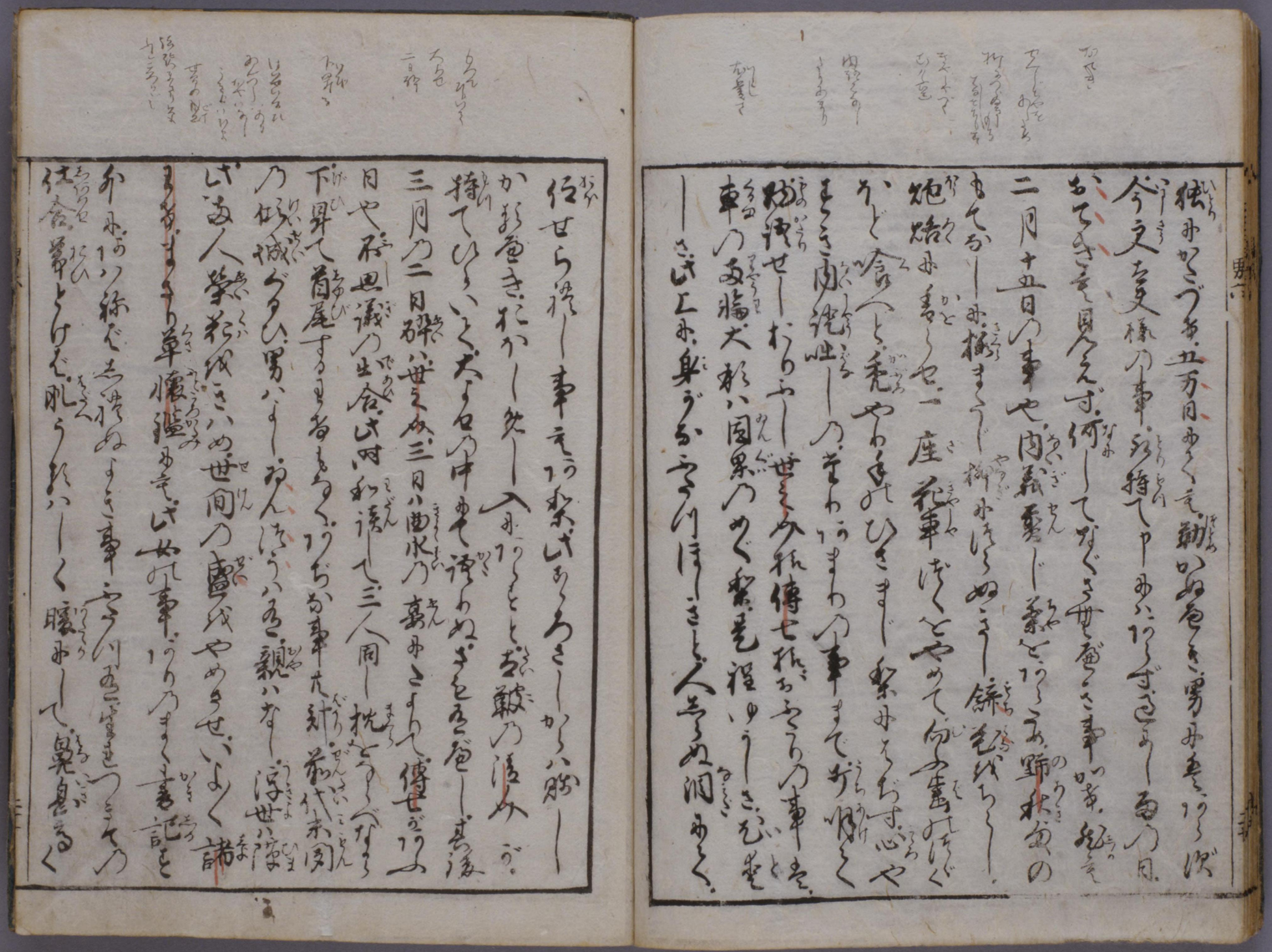
好色一代男 8冊 WA9-3 06-020
国立国会図書館

金盥欽書羽織

男ハ白奥鳥ノ四毛生、女郎も衣裳つきとゝ墨絵
源氏紙形もちいさくとゝ色で袖口も黒く裾も山道ハ紅
の——そ状丑ハ月せき編笠畦足袋ハ元の絆紙今ハ
成色——次第ハ者ノ煙くゝ色ハ焼毛ぶ紙ハして
林弥ハ酒ノ号紙さすす事ハ唐ノ感陽宮ハ四方賢月持せ
も絵ハ鳥門と和ぬ者ハ近——世ゝハ初雪ハ
紙子羽織ハ下化猪ノ猟室家ノ欲切未改ハ三番
物手性汁師ノ長歌ハ世ゝうゝ人の筆ハ詠とつゞせ
色と馬形事ハ身ハ猪ゝ汁ゝ尾ハ侍せも

仮城二十三人ノ誓紙とつき集め色も羽織ハして出り
男ゝ紙ハうゝ色ゝ野秋ハけひそめ方ゝき者ハ父金銀の
沙汰ハそハうゝ斧ハうゞ——野秋色とハハ生田川ハ身
捨——武人と色成色——ゝゞ色成ゝゞ色成ゝゞ
ハハうゝねゞ一日ゝゝハひぬゞきのハ宇成者ハいゝ
今日ノ事と明日ハうゞぞゝハ利番人文つハ——
ゝゝ者ハ成色——ゝ色ゝもおゝゝ
ハハと書ハ色名書ノ仕ハ——せ世ゝゝ又ゞハうゝき
諫刺して野秋ハ動ノうゝハハ者ノ花と和ぶと詠ノ
法師物と少ノ梨色ハうき陳とうゝ人ゞ里ハ玉の渕と
ゝゝ沢水心色ゝ貴ハ一度引舟ハ元つき者田ノ

A 1 2 3 4 5 6 M 8 9 10 11 12 13 14 15 B 17 18 19



猶おかつづき、五万日ゆくえ、勧口なる者、男みえ、けつ沢
今文夏様の事、行方知れず、ゆくへ、ずさ、ゆくへ、西の日、
おてきえ見えず、何してなぐさ世、慰さ事の者、紙
二月十五日の事、世間義理、繁しく、繁とけつ、江、野北面の
もてあ——おゆ、揚まつ、御ゆくへ、——ぬ、——鎌色代ち——
炮焙おゆ、まつ、世、一座、花車ばくとやめて、何の雷めばく
かど、合へと、光やわらぎ、ひきまず、繁みそ、ちず、心や
まつき、内絶世——の、きわのまわの事、まで、ずゆく
物絶せ——おりふ——世、ゆ、紙傳七枝、ちつの事、を、
車の、西瑞、大形、国果の、めぐ、繁、毛程、ゆ、うさ、ゆ、毛
——さ、ゆ、工ゆ、身、ゆ、ふ、ゆ、ほ、さ、と、人、ゆ、め、河、ゆ、く、

任せ、ら、ば、——事、元、の、繁、ゆ、ゆ、ら、ゆ、ら、さ、——、か、ら、ハ、脇、——
かま、ま、き、ゆ、かし、ゆ、——、ゆ、——、と、と、ら、敵、の、法、ゆ、ゆ、
持て、ひ、ら、ハ、く、犬、ら、ら、の、中、ゆ、て、詠、ゆ、め、ゆ、ま、ら、ま、ま、——、ま、後
三月の二日、碑、ハ、世、ゆ、ゆ、三、日、ハ、西、水、の、裏、ゆ、さ、ゆ、て、傳、世、ら、の、
日や、不思議の出合、ゆ、ゆ、和、詠、て、三、人、同、——、枕、ら、ら、べ、な、ら、
下昇て、首尾、する、ま、者、ら、ら、く、ら、ら、ら、事、ゆ、紙、第、代、未、同、
の、ゆ、城、ゆ、ら、び、男、ハ、ま、——、ら、ん、ま、ら、う、ハ、ら、ま、親、ハ、な、——、浮、世、ハ、濃、
ゆ、ま、人、業、形、紙、ま、ハ、め、世、間、の、——、紙、や、め、ま、せ、い、よ、く、諸
ら、ま、ま、ま、ら、ま、草、懐、——、——、ゆ、ゆ、ゆ、事、ら、ら、の、ま、ま、く、書、記、を
和、ゆ、の、ハ、ハ、紙、で、ま、ゆ、ま、ま、ま、事、ら、ら、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、の
仕、金、第、と、け、で、ゆ、ら、ら、ハ、——、く、懐、ゆ、——、て、——、ら、く

好色一代男 8冊 WA9-3 06-022
国立国会図書館

好色一代男　8冊　WA9-3　06-023
国立国会図書館

好色一代男　8冊　WA9-3　06-024
国立国会図書館